



インストールガイド

uniPaaS Client V1

本マニュアルに記載の内容は、将来予告なしに変更することがあります。これらの情報について MSE (Magic Software Enterprises Ltd.) および MSJ (Magic Software Japan K.K.) は、いかなる責任も負いません。

本マニュアルの内容につきましては、万全を期して作成していますが、万一誤りや不正確な記述があったとしても、MSE および MSJ はいかなる責任、債務も負いません。

MSE および MSJ は、この製品の商業価値や特定の用途に対する適合性の保証を含め、この製品に関する明示的、あるいは黙示的な保証は一切していません。

本マニュアルに記載のソフトウェアは、製品の使用許諾契約書に記載の条件に同意をされたライセンス所有者に対してのみ供給されるものです。同ライセンスの許可する条件のもとでのみ、使用または複製することが許されます。当該ライセンスが特に許可している場合を除いては、いかなる媒体へも複製することはできません。

ライセンス所有者自身の個人使用目的で行う場合を除き、MSE または MSJ の書面による事前の許可なしでは、いかなる条件下でも、本マニュアルのいかなる部分も、電子的、機械的、撮影、録音、その他のいかなる手段によっても、コピー、検索システムへの記憶、電送を行うことはできません。

サードパーティ各社商標の引用は、MSE および MSJ の製品に対するコンパチビリティに関しての情報提供のみを目的としてなされるものです。

本マニュアルにおいて、説明のためにサンプルとして引用されている会社名、製品名、住所、人物は、特に断り書きのないかぎり、すべて架空のものであり、実在のものについて言及するものではありません。

Magic は Magic Software Enterprises Ltd. のイスラエルその他の国での商標または登録商標です。

Magic uniPaaS® は Magic Software Japan K.K. の登録商標です。

uniPaaS Studio、uniPaaS Client、uniPaaS Enterprise Server および uniPaaS RichClient Server は Magic Software Japan K.K. の商標です。

Pervasive.SQL® および Pervasive PSQL は Pervasive Software, Inc. の商標です。

Microsoft® および FrontPage® は、Microsoft Corporation の登録商標です。また、Windows™, WindowsNT™ および ActiveX™ は Microsoft Corporation の商標です。

Oracle® は Oracle Corporation の登録商標です。

DB2® および DB2 Universal Database® は、IBM Corporation の商標です。

Intel® および Pentium® は、Intel Corporation の商標です。

Java® は、Sun Microsystems, Inc. の商標です。

一般に、会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

MSE および MSJ は、本製品の使用またはその使用によってもたらされる結果に関する保証や告知は一切していません。この製品のもたらす結果およびパフォーマンスに関する危険性は、すべてユーザが責任を負うものとします。

この製品を使用した結果、または使用不可能な結果生じた間接的、偶発的、副次的な損害（営利損失、業務中断、業務情報の損失などの損害も含む）に関し、事前に損害の可能性が警告されていた場合であっても、MSE および MSJ、その管理者、役員、従業員、代理人は、いかなる場合にも一切責任を負いません。

第二版 2009年4月17日

Copyright 2009 Magic Software Enterprises Ltd. and Magic Software Japan K.K. All rights reserved.

目次

1 はじめに

| | |
|--|---|
| Magic uniPaaS V1 製品 | 1 |
| 概要 | 1 |
| 製品毎のコンポーネント | 1 |
| Web サービス用フレームワーク (Systinet Server for Java) について | 2 |
| ユーティリティ | 2 |
| Magic eDeveloper V9Plus | 2 |
| dbMAGIC Ver8.2K4SP1 | 2 |
| バンドル DBMS | 3 |

2 セットアップ

| | |
|-------------------------------------|----|
| セットアップ条件 | 5 |
| システム条件 | 5 |
| DBMS | 6 |
| その他の注意事項 | 6 |
| ライセンス登録の流れ | 7 |
| ライセンス管理 | 8 |
| ライセンス管理の概念 | 8 |
| 複数ユーザで利用する場合の構成方法 | 8 |
| ユーザ数を越えた接続 | 12 |
| ライセンスの種類 | 12 |
| ライセンスの登録手順 | 12 |
| ライセンス登録 | 12 |
| インストール手順 | 17 |
| インストールプログラムの起動 | 17 |
| セットアップタイプの選択 | 19 |
| インストール先の選択 | 21 |
| コンポーネントの選択 | 22 |
| プログラムフォルダの選択 | 23 |
| ライセンスファイルの指定 | 23 |
| セットアップファイルの転送 | 24 |
| セットアップの終了 | 25 |
| メンテナンス処理 | 26 |
| Magic uniPaaS 製品以外のアンインストール処理 | 26 |
| アップグレード処理 | 27 |

3 トラブルシューティング

| | |
|-------------------------|----|
| ライセンスのトラブルシューティング | 31 |
| OS の環境設定 | 31 |

| | |
|--|----|
| Windows Vista™ / Windows Server 2008 でのインストールについて..... | 31 |
| Apache のエイリアス設定..... | 32 |
| インストール時の FAQ..... | 33 |
| ライセンス登録時の FAQ..... | 34 |
| エラーメッセージ一覧..... | 34 |
| コンポーネントの選択時のエラー..... | 35 |
| MRB のパスワード指定時のエラー..... | 35 |
| インストールディレクトリ指定の時..... | 35 |
| ライセンスサーバ/ライセンスファイル指定時のエラー..... | 35 |
| インターネットリクエストの転送先指定時のエラー (ISAPI 用)..... | 36 |
| インターネットリクエストの転送先指定時のエラー (CGI 用)..... | 36 |
| MRB 指定時のエラー..... | 37 |
| Windows のサービスの更新時のエラー..... | 37 |
| インストール情報作成時のエラー..... | 37 |
| アプリケーション起動時のエラー..... | 37 |
| メンテナンス/アップグレード時のエラー..... | 38 |
| アンインストール時のエラー..... | 39 |
| ファイルの転送エラー..... | 39 |
| 内部エラー..... | 39 |

はじめに

1

1

この章では、製品の概要について説明いたします。

Magic uniPaaS V1 製品

サービスパック CD-ROM (No.1) からインストールできます。

概要

セットアップ時に選択メニューが表示されますが、以下の3つの製品が選択できます。それぞれの製品で行うことのできる機能表を下記に示します。

| 利用可能な機能 | uniPaaS Studio | uniPaaS Client | uniPaaS Enterprise Server | uniPaaS RichClient Server |
|-------------------|----------------|----------------|---------------------------|---------------------------|
| アプリケーション開発 | ○ | | | |
| アプリケーション実行 | | | | |
| クライアントアプリケーション | ○ | | | |
| サーバアプリケーション | △※ | | ○ | ○ |
| リッチクライアントアプリケーション | △※ | | | ○ |

※ uniPaaS Studio の場合、MRB やインターネットリクエストに対するアクセスは、1度起動されたエンジンに対して 2000 回までの制限があります。

製品毎のコンポーネント

各製品で選択できるコンポーネントを以下に一覧表示します。

| コンポーネント | Magic Studio | Magic Client | Magic Enterprise Server | Magic RichClient Server |
|----------------------------|--------------|--------------|-------------------------|-------------------------|
| ミドルウェアゲートウェイ | | | | |
| MRB (Magic Request Broker) | ○ | | ○ | ○ |
| J2EE モジュール | ○ | | ○ | ○ |
| SNMP モジュール | ○ | | ○ | ○ |
| インターネットリクエスト | | | | |
| ISAPI | ○ | | ○ | ○ |
| CGI | ○ | | ○ | ○ |
| データベースゲートウェイ | | | | |
| Pervasive.SQL | ○ | ○ | ○ | ○ |
| Oracle | ○ | ○ | ○ | ○ |
| MS-SQL Server | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ODBC (※1) | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ライセンスマネージャ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ライセンスサーバ | | | ○ (※2) | ○ (※2) |
| 実行エンジン | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 開発エンジン | ○ | | | |
| ヘルプファイル | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ドキュメント (PDF) ファイル | | | | |

| コンポーネント | Magic Studio | Magic Client | Magic Enterprise Server | Magic RichClient Server |
|------------------|--------------|--------------|-------------------------|-------------------------|
| インストールガイド | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 技術文書 | ○ | | | |
| バンドル製品 | | | | |
| CVS | ○ | | | |
| デモアプリケーション | ○ | | | |
| リッチクライアント実行モジュール | ○ | | | ○ |
| ブラウザベース実行モジュール | ○ (※3) | | ○ (※3) | ○ (※3) |
| Web サービス用フレームワーク | ○ | ○ | ○ | ○ |
| メッセージングコンポーネント | ○ | | ○ | ○ |

(※1) β 機能です。

(※2) ライセンスサーバをインストールする場合は、必ずライセンスマネージャもインストールしてください。

(※3) 非サポート機能です。

Web サービス用フレームワーク (Systinet Server for Java) について

Magic uniPaaS で Web サービスの呼び出しや Magic アプリケーションをプロバイダとして使用する場合に必要です。

Systinet Server for Java をインストールおよび動作させるためには、Java の SDK (uniPaaS Studio の場合) または、JRE (uniPaaS Client、uniPaaS Enterprise Server および uniPaaS RichClient Server) の Ver1.5 以上がインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、Magic uniPaaS のインストール時に「Web サービス用フレームワーク」を選択することで一緒にインストールされます。

ユーティリティ

サービスパック CD-ROM (No.1) からインストールできます。

Magic eDeveloper V9Plus

dbMAGIC Ver8 のアプリケーションを Magic uniPaaS V1 に移行する場合は、一旦 V9Plus のアプリケーションにする必要があります。この目的のために、Magic eDeveloper V9Plus が添付されています (dbMAGIC Ver7 以前のアプリケーションは、Ver8 に移行した後、更に V9Plus に移行する必要があります)。

このため、SQL 系のゲートウェイや MRB、やインターネットリクエストなどはインストールされません。本製品は、移行を目的とする場合以外は使用できません。



SQL 系 RDBMS を使用したアプリケーションの移行を行う場合は、MSJ のホームページよりインストールファイルを入手してください。また、ライセンスは、MSJ の営業所にお問い合わせください。

dbMAGIC Ver8.2K4SP1

dbMAGIC Ver7 以前のアプリケーションを Magic uniPaaS V1 に移行する場合は、一旦 Ver8 のアプリケーションにする必要があります。この目的のために、dbMAGIC Ver8.2K4SP1 が添付されています。

このため、MRB やインターネットリクエストなどはインストールされません。本製品は、移行を目的とする場合以外は使用できません。



RDBMS は、ボーナス CD に添付されている Pervasive PSQL v10 を使用してください。

1

バンドル DBMS

uniPaaS Studio と uniPaaS Client の場合、ボーナス CD-ROM に以下の製品が添付されています。

- Microsoft SQL Server 2005 Express Edition
- Microsoft SQL Server Management Studio Express Edition
- Microsoft SQL Server 2008 Express with Tools
- Pervasive PSQL Summit v10 Workgroup

[このページは意図的に空白にしています。]

セットアップ

2

2

ここでは、uniPaaS Client V1 のセットアップに関する説明をいたします。以下の構成になっています。

- セットアップ条件
- ライセンス管理
- ユーザ登録申請

セットアップ条件

uniPaaS Client V1 をセットアップするためには、以下の条件を満たす必要があります。

システム条件

ハードウェア

32 ビットの Intel x86 Processor（またはその互換 CPU）を搭載した、AT 互換機

セットアップに必要なディスク容量／メモリ容量

セットアップに必要なディスク容量／メモリ容量は、以下の通り必要です。

ディスク容量は、全てのコンポーネントを選択した場合の最大値です。

これ以外に、OS のテンポラリディレクトリに一時ファイルが作成されるため、4 ～ 50M ほどの空きが必要です。

| 製品名 | ディスク | メモリ | 備考 |
|-------------------------------------|---------|------|---|
| uniPaaS Client | 400M 以上 | 128M | メモリは、512M 以上を推奨 |
| SQL Server 2005 Express | 200M 以上 | 192M | メモリは、512M 以上を推奨 |
| Pervasive PSQL Summit v10 Workgroup | 500M 以上 | 256M | Xtreme I/O ドライバを使用する場合は、2G 以上のメモリが必要です。 |



RDBMS のインストールに必要なディスクの空き容量は、Magic uniPaaS のインストーラではチェックしていません。合計した空き容量があることをお確かめください。

OS

- Windows XP Professional
- Windows Vista™ (Business/Enterprise/Ultimate)
- Windows 2003 Server (Standard/Enterprise)
- Windows 2008 Server (Standard/Enterprise)



日本語版の OS のみサポートします。2008 Server のみ 64 ビット OS をサポートします。

セットアップする場合は、Administrator の権利を持つユーザ ID でログインしてください。

DBMS

| DBMS | バージョン | Gateway |
|---------------|--|---------------|
| Pervasive.SQL | Pervasive PSQL v10 (トランザクショナル) Pervasive.SQL v9 (トランザクショナル) | MGBtrieve.dll |
| Oracle | Oracle9iR2(9.2)/10g/11g | MGOOracle.dll |
| MS-SQL Server | 2005 2008 | MGmssql.dll |
| ODBC (β 版) | Ver2.00 API 準拠 | MGodbc.dll |

その他の注意事項

1. インストールする PC に不当なタイムスタンプ (例えば、'0000/01/01') に設定されたフォルダが存在する場合
LICENCE ERROR:SYSTEM DATE IS INCORRECT
というエラーが出て Magic uniPaaS が起動しない場合があります。
このような場合、Windows ディレクトリの中のフォルダのタイムスタンプをチェックして、変更してみてください。
2. OS のシステムクロックが「2038 年 1 月 20 日」以降に設定されている場合、Magic uniPaaS は正常に起動しません。(これは、C 言語のランタイムライブラリの制限によるものです。)

ライセンス登録の流れ

uniPaaS Client のインストール、ユーザ登録などの一連のセットアップ作業をフローにしたものを以下に示します。

各作業の詳細は、指定ページを参照してください。

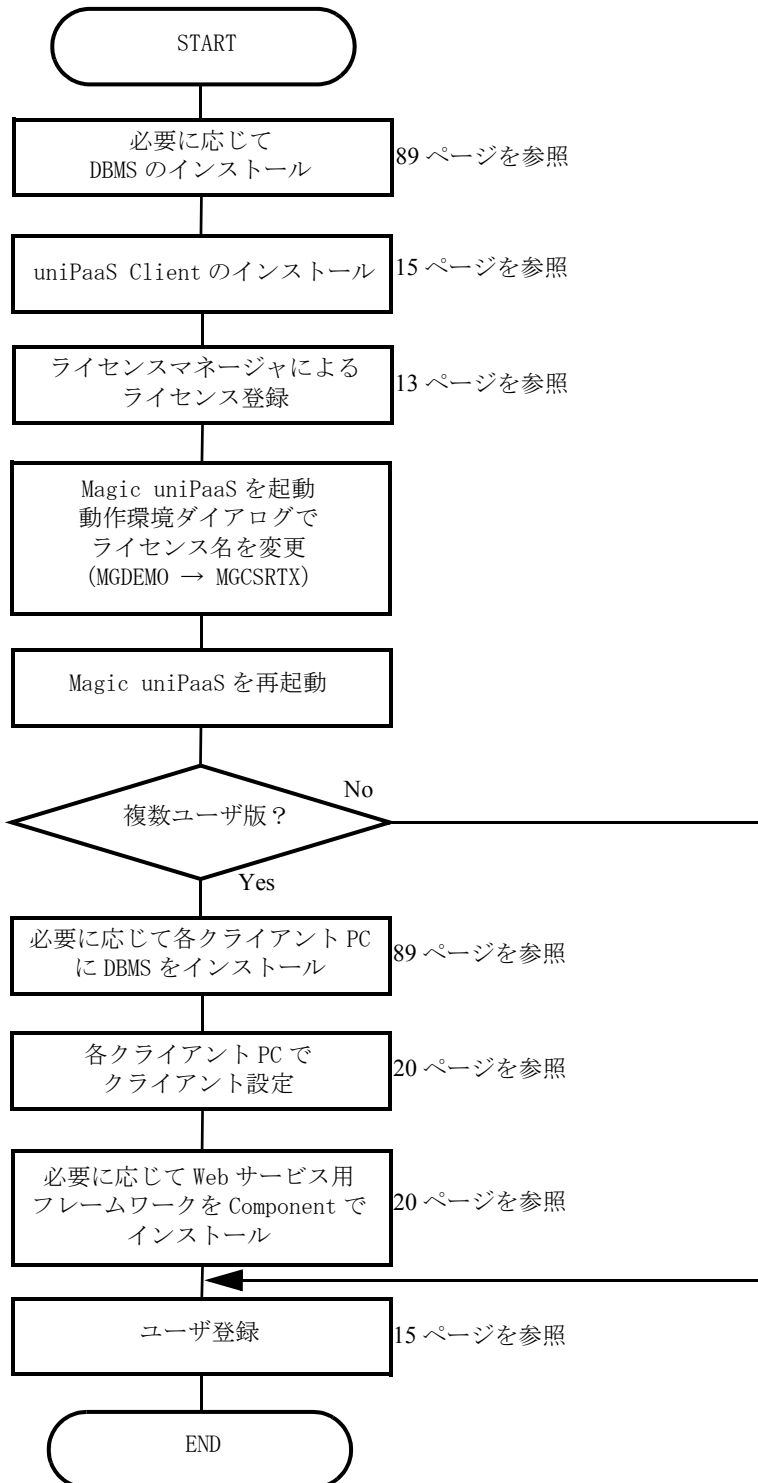


図 2-1uniPaaS Client V1 のセットアップの流れ

ライセンス管理

インストールが終了した直後の Magic uniPaaS V1 は、体験版として動作いたします。本来の機能を有効にするには、ライセンス登録処理が必要になります。ここでは、その処理手順について説明いたします。

ライセンス管理の概念

uniPaaS Client V1 では、以下のコンポーネントの組み合わせによってライセンス管理を行っております。

- **ライセンスファイル**…… ライセンス情報が登録されているテキストファイルです。
- **ライセンスマネージャ**…… ライセンスファイルをメンテナンスするための Magic アプリケーションです。ライセンスマネージャが処理するライセンスファイルは、Magic uniPaaS のインストール先のライセンスファイル (license.dat) です。

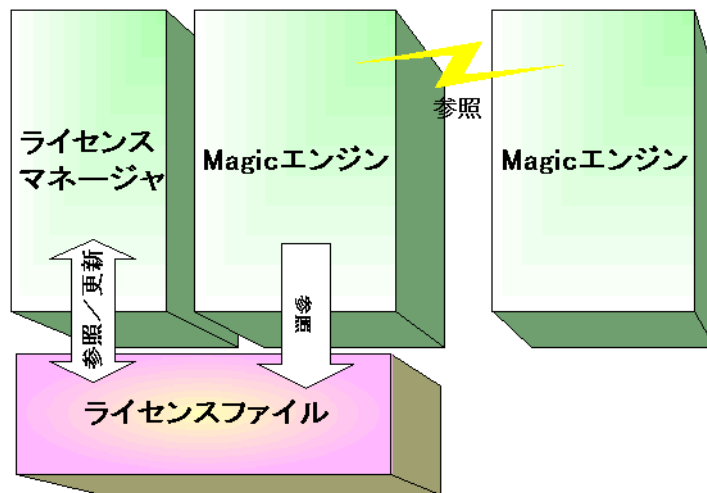


図 2-1 uniPaaS Client V1 の構成図

uniPaaS Client では、ライセンスファイルでライセンス管理を行います。

Magic エンジンは、ライセンスファイルを直接参照し、他の Magic エンジンとも通信を行います。



- 複数ライセンスを組み合わせる場合は、PC 毎に個別のライセンスファイルの設定が必要です。
例えば、5 ユーザ版、10 ユーザ版を組み合わせる場合は、5 ユーザ版のライセンスファイルを使用する PC と、10 ユーザ版のライセンスファイルを使用する PC を分けて設定しておく必要があります。その場合、5 ユーザ版、10 ユーザ版を組み合わせるのではなく、15 ユーザ版を使用することを推奨します。
- uniPaaS Client V1 をノート PC にインストールし、ネットワーク環境、モバイル環境を切り替えて使用する場合は、1 ユーザ版を使用してください。
- Windows Terminal Service のような、1 台のサーバで複数のユーザが同時にセッションを開いて利用できるような構成の場合には、接続可能なユーザ数分のライセンスが必要です。

複数ユーザで利用する場合の構成方法

複数ユーザ版のライセンスで利用する場合のライセンス形態には、同時アクセスユーザ数、インストールベースライセンスの2種類があります。

同時アクセスユーザ数：

同時にアクセスしているユーザ数で管理されます。この場合は、一台の PC でライセンス登録を行いライセンスファイル生成し、ライセンスファイルを共有して使用します。
例：50 ユーザ版使用時に、100 台の PC にインストールした場合、同時には 50 ユーザが使用可能となります。

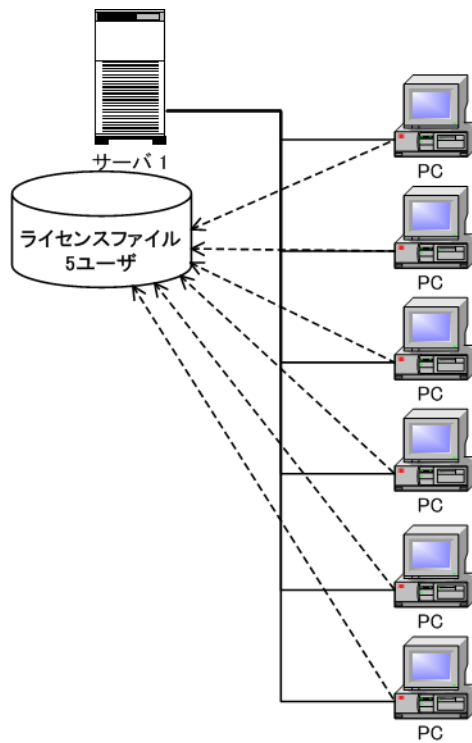


図 2-2 同時アクセスユーザ数

インストールベース :

PC にインストールした台数で管理するものです。1 ユーザ版は、インストールベースライセンスとなります。また、複数ユーザ版でも、ネットワークセグメントを越えて使用する場合は、インストールベースライセンスとなります。

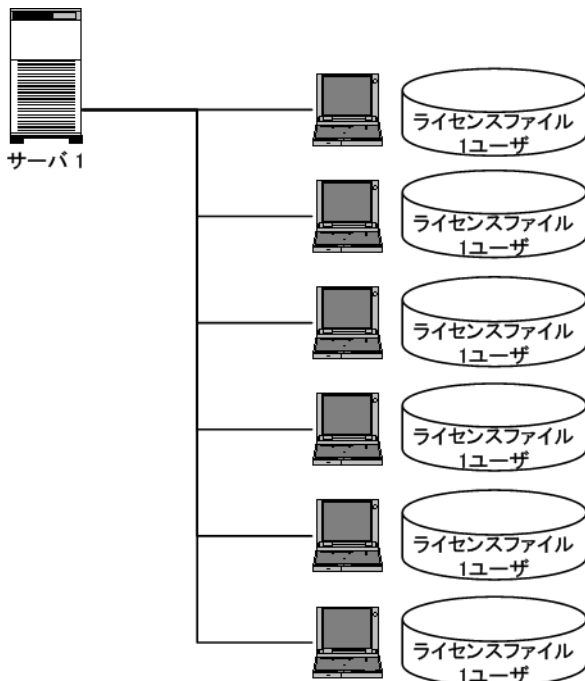


図 2-3 インストールベース (1 ユーザ版で構成した場合)

複数ユーザ版でネットワークセグメントを超えるクライアントがある場合 :

複数ユーザ版を使用して、一部のユーザ数分のみ異なるネットワークセグメントで使用する場合は、インストールベースのライセンスとなり、以下のように構成します。

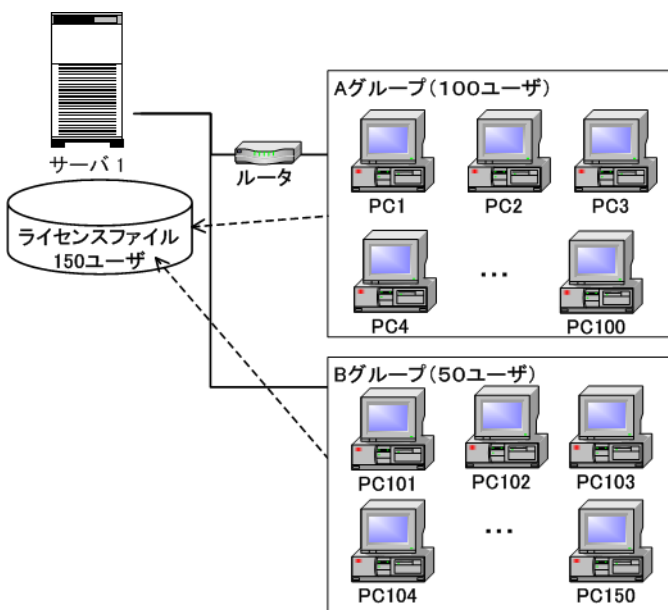


図 2-4 ネットワークセグメント越え



- ・ 全システムでの合計ライセンス数が購入ライセンス数を超えないように設定します。上記の例では、Aグループは100台のPC、Bグループは50台のPCにインストールし、合計数が150を超えないようにします。
- ・ 同一ネットワークに接続されている必要があります。スタンドアロンでの使用はできません。
- ・ 同時アクセスユーザ数で管理したい場合は、セグメント毎にライセンスを購入してください。

2

複数ユーザ版と1ユーザ版を組み合わせた場合：

同時アクセスユーザ数方式とインストールベースの方式を組み合わせることもできます。

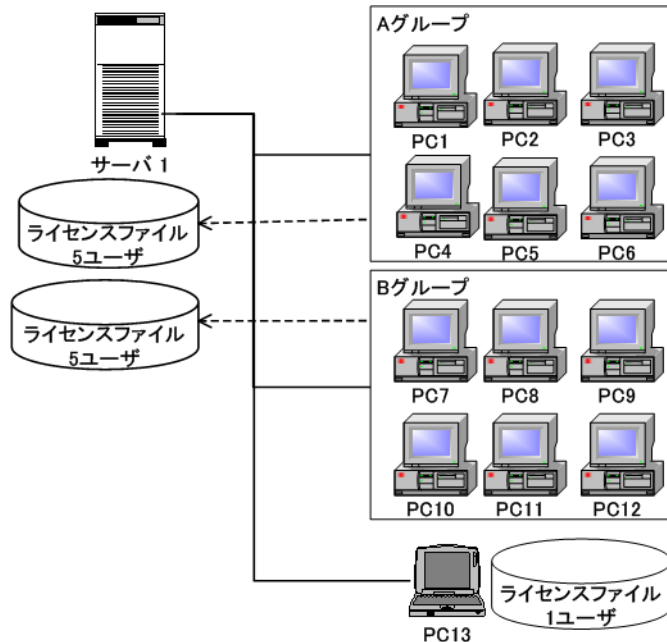


図 2-5 複数ユーザ版と1ユーザの組み合わせ



- ・ 複数のライセンスを組み合わせ、ファイルサーバ上に設定した場合、uniPaaS Clientは、どのライセンスファイルを使用するかを明確に指定する必要があります。V9/V9Plusのようにライセンスの累計処理はありません。

例)

ライセンス A : LicenseFile=¥¥LicensePC¥¥License5A. dat

ライセンス B : LicenseFile=¥¥LicensePC¥¥License5B. dat

- ・ 同時アクセスの管理対象は、ライセンスファイル単位となります。上記の図では、Aグループ、Bグループは個別にアクセス制御されます。従って、全体のユーザ数として上限を超えなくても、ユーザ数が上限に達した判断される場合があります。

ユーザ数を越えた接続

取得しているライセンスのユーザ数を越えて接続しようとした場合、以下のようなエラーダイアログが表示されます。

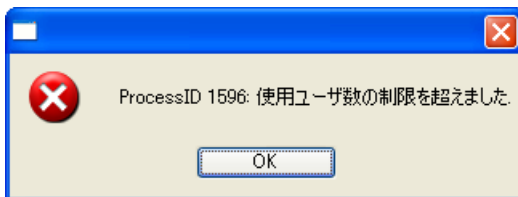


図 2-6 接続数を越えた場合のエラーダイアログ

ライセンスの種類

体験版用ライセンス :MGDEMO

インストール直後のデフォルトで使用できるライセンスです。以下のような制限があります。

| 機能 | 制限値 |
|--------------------------|----------|
| データテーブルのレコード数 | 500 レコード |
| アクセスできるプログラム | 150 番まで |
| アクセスできるデータソース | 20 番まで |
| アプリケーション (ECF) ファイルのアクセス | 不可 |

実行体験版用ライセンス :MGRTDEMO

ライセンスマネージャを実行させるためのライセンスです。

製品ライセンス :MGCSRTX

購入頂いた製品の機能を有効にするためのライセンスです。

ライセンスの登録手順

次にライセンスの登録手順について説明します。

ライセンス登録

ライセンスコードは、Magic uniPaaS V1 使用許諾契約書に記載されています。ライセンスマネージャを使用してライセンス登録処理を実行してください。

ライセンスマネージャで登録する

ライセンスマネージャを起動します。

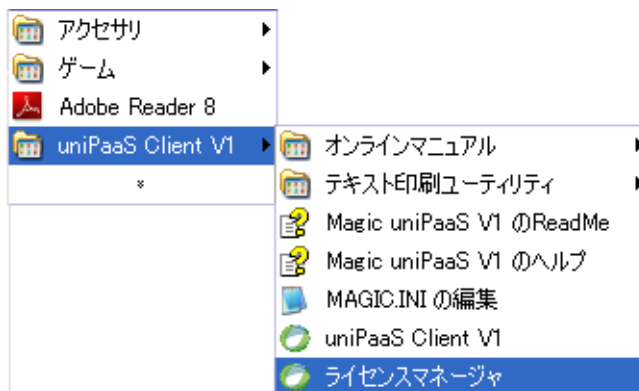


図 2-7 ライセンスマネージャの起動メニュー

起動されたら、ライセンスマネージャの右側にある [ライセンスの追加] というボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。

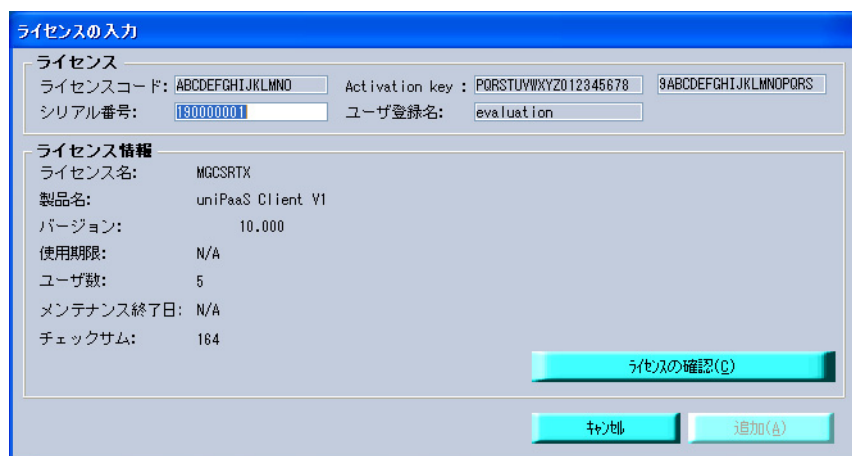


図 2-8 ライセンス登録ダイアログ

ここで、以下のコードを入力してください。

- ライセンスコード
- Activation Key (2カ所あります)
- シリアル番号
- ユーザ登録名

ユーザ登録名を入力したら、Tab または、↓ キーを押してください。

入力欄の下に入力したライセンス内容が表示されますので、確認の上 [ライセンスの確認] ボタンをクリックしてください。

ライセンスが妥当であれば、以下のようなメッセージが表示され、追加ボタンが有効になります。

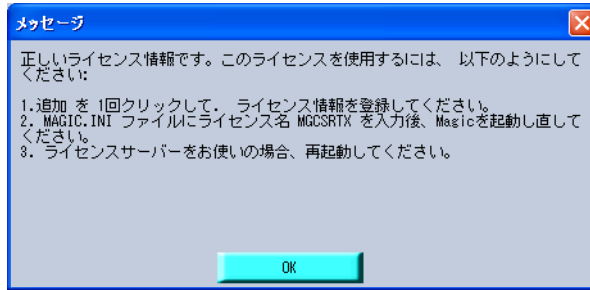


図 2-9 ライセンスが妥当な場合

ライセンスが正しくない場合は、以下のようなメッセージが表示されます（追加ボタンは有効になりません）。

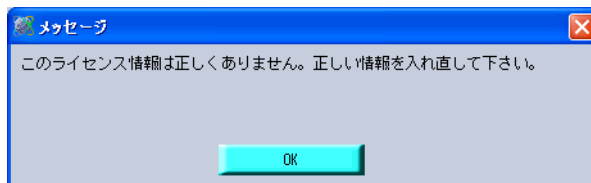


図 2-10 ライセンスが正しくない場合

再度確認の上、[はい (Y)] をクリックしていただきますと、ライセンスファイルを更新いたします。

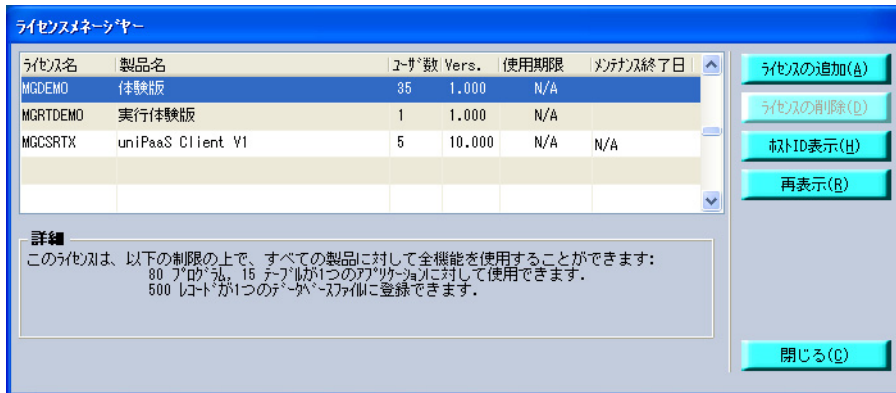


図 2-11 ライセンスが追加された場合

これで登録したライセンスが有効になります。

Magic uniPaaS 側のライセンスの切り替え

登録したライセンスを Magic uniPaaS で使用するのは、以下の 2 つの手順のどちらかで設定してください。

Magic uniPaaS の [動作環境] ダイアログで変更する方法

Magic uniPaaS を起動後、プルダウンメニューの [設定 / 動作環境] を指定します。

[動作環境] ダイアログが表示されますので、[システム] タグの [ライセンス] の設定欄にライセンス名を入力します。

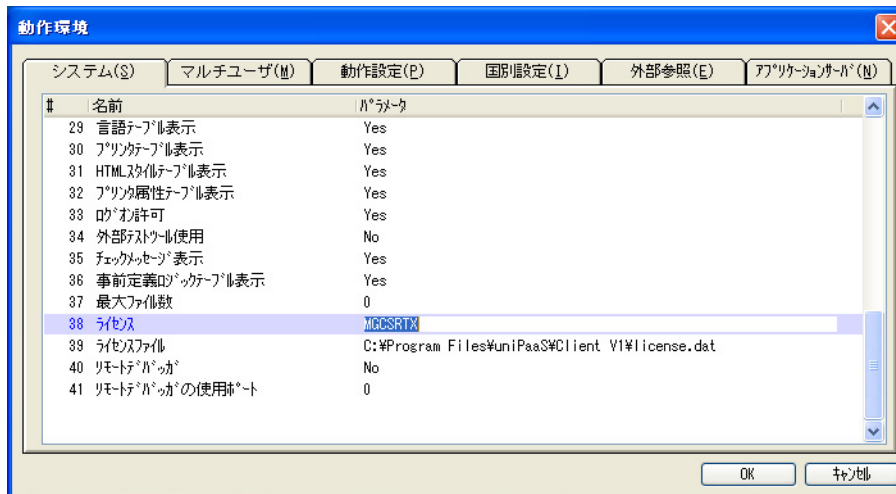


図 2-12 動作環境ダイアログ

[動作環境] ダイアログを閉じ、Magic uniPaaS を再起動してください。再起動後は指定されたライセンスに基づいて動作いたします。

MAGIC.INI ファイルで変更する方法

Magic uniPaaS のセットアップ先には、MAGIC.INI という環境ファイルがあります。テキストエディタでこのファイルを開き、[MAGIC_ENV] セクションの [LicenseName] というキーのパラメータ値を変更してください。このあと Magic uniPaaS を起動すれば、指定されたライセンスに基づいて動作いたします。

ユーザ登録申請

ユーザ登録の方法には、以下の3種類があります。

- UDC による登録
- Web でのユーザ登録
- メールでのユーザ登録

UDC による登録

事前に UDC のユーザ ID とパスワードを登録することにより、インターネット経由でライセンスコードの Web 発行サービスをご利用いただけるようになります。

ライセンス発行のみでなく、購入製品の確認や、情報更新も、弊社営業時間に関係なくご利用可能です。

詳細は、以下の URL にアクセスしてください。

<http://apps2.magicsoftware.co.jp/udclink/>

Web でのユーザ登録

Web でユーザ登録情報を記入します。

詳細は、以下の URL にアクセスしてください。

<http://www.magicsoftware.co.jp/user/reg/univ1userreg.html>

メールでのユーザ登録

ユーザ登録情報を電子メール (japan_magicreg@magicsoftware.com) で送っていただきます。

詳細は、CD-ROM の uniV1Registration.txt を参照してください。



インストールプログラムの起動 (Setup.exe) で表示されるメニューの「ユーザ登録」に上記のリンクがあります。



インストール手順

この章では、製品のセットアップ手順を説明します。基本的には、インストールプログラムの各ダイアログの説明に従って実行していただければインストールできるようになっております。製品や選択したコンポーネントによっては、表示されないダイアログもあります。

2

インストールプログラムの起動

通常は、CD-ROM ドライブにセットアップ CD を挿入すると、自動的にインストールプログラムが起動されます。もし起動されない場合は、以下の手順で起動させてください。(Windows XP を前提に説明しています。)

- 1 スタートボタンをクリックして [設定 (S)] - [コントロールパネル (C)] を選択してください。
- 2 [アプリケーションの追加と削除] のアイコンをダブルクリックしてください。
- 3 [プログラムの追加] で [CD またはフロッピー (F)] のプッシュボタンを押下してください。

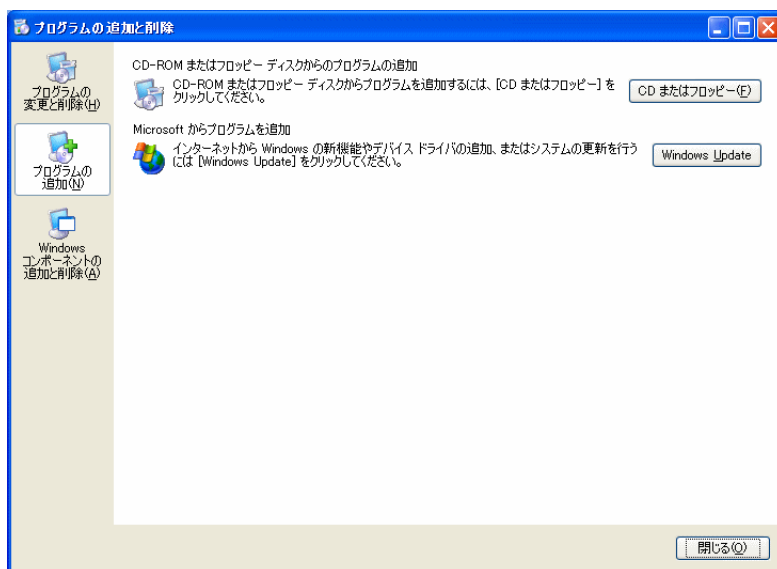


図 2-13 アプリケーションの追加と削除

CD-ROM のルートディレクトリ上の SETUP.EXE を実行してください。

インストール製品の選択

プログラムを起動するとまず、以下のようなウィンドウが表示されます。



図 2-14 初期起動画面

ここで、製品名が表示されたボタンをクリックすると、各製品のインストール処理が実行されます。

ダイアログボックスのメッセージに従って必要なデータを指定してください。

Component

クライアント PC に対してクライアント環境設定を行った場合で、Web サービス用のフレームワークもインストールする必要がある時に選択してください。

ウェルカムダイアログ

uniPaaS Client を選択すると、ウェルカムダイアログが表示されます。

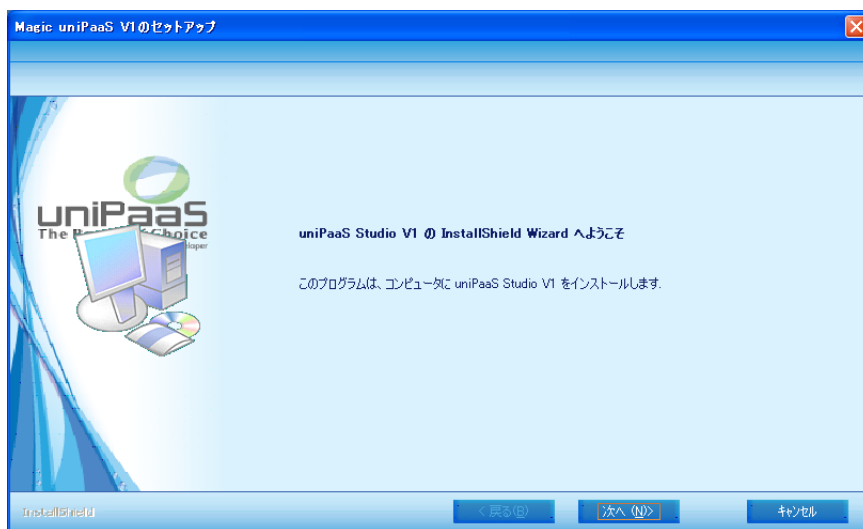


図 2-15 ウェルカムダイアログ

[次へ (N)] をクリックすると 使用許諾に関するダイアログが表示されます。

使用許諾の確認

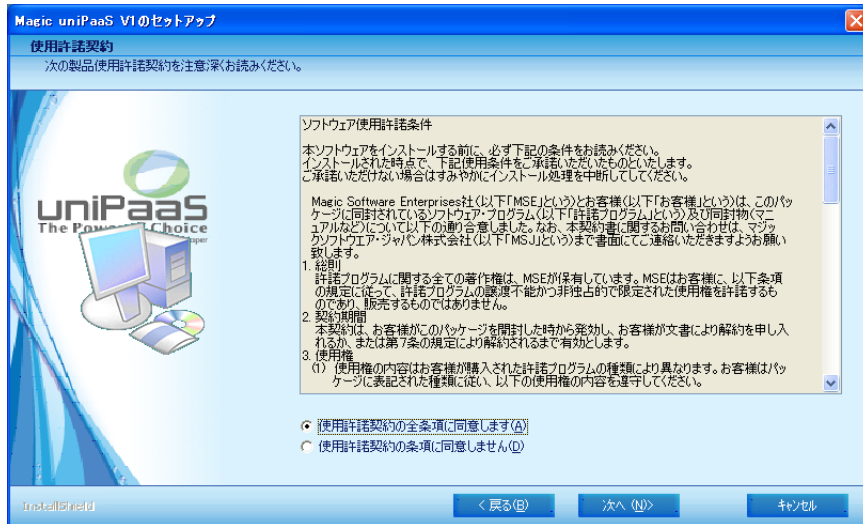


図 2-16 使用許諾ダイアログ

内容をよく確認した上で、同意され処理を継続される場合は [はい (Y)] をクリックして次に進んでください。同意されない場合は、[いいえ (N)] をクリックしてインストール処理を中断してください。

セットアップタイプの選択

以下のようなセットアップタイプを選択するダイアログが表示されます。選択用のボタンをクリックすることで [標準]、[カスタム]、[クライアント環境設定] のタイプが選択され、[インストール先の選択] ダイアログに移ります。



図 2-17 セットアップタイプの選択

標準

インストールする製品やPCの状態によってインストールするコンポーネントが自動的に決定されます。選択されたコンポーネントは、ファイル転送前に確認ダイアログで表示されます。

選択されるコンポーネントは以下のとおりです。「○」がついていないコンポーネントを選択する場合は、[カスタム]を選択する必要があります。

| コンポーネント | uniPaaS Client |
|------------------|----------------|
| データベースゲートウェイ | |
| Pervasive.SQL | ○ |
| Oracle | |
| MS-SQL Server | |
| ODBC | (β 版) |
| ライセンスマネージャ | ○ |
| 実行エンジン | ○ |
| ヘルプファイル | ○ |
| メッセージングコンポーネント | |
| Web サービス用フレームワーク | 注意 |

(注意) 英語版のソフトのため表示は全て英語です。

カスタム

後述する [コンポーネントの選択] ダイアログが表示されます。この設定を変更することで、インストールするコンポーネントを任意に選択できます。

クライアント環境設定

サーバ上にインストールされた Magic uniPaaS を共有してアクセスする環境を設定します。この場合、動作に必要な環境ファイル (MAGIC.INI や、XXXX.JPN ファイルなど) は、サーバ上のファイルを使用するようにショートカットを作成します。



クライアント環境設定では、Web サービス用のフレームワークのインストール処理を行いません。各クライアントでのインストールが必要な場合は、製品選択ウィンドウ (18 ページ) から Component を選択することでインストールできます。

インストール先の選択

以下のようなインストール先を指定するダイアログが表示されます。

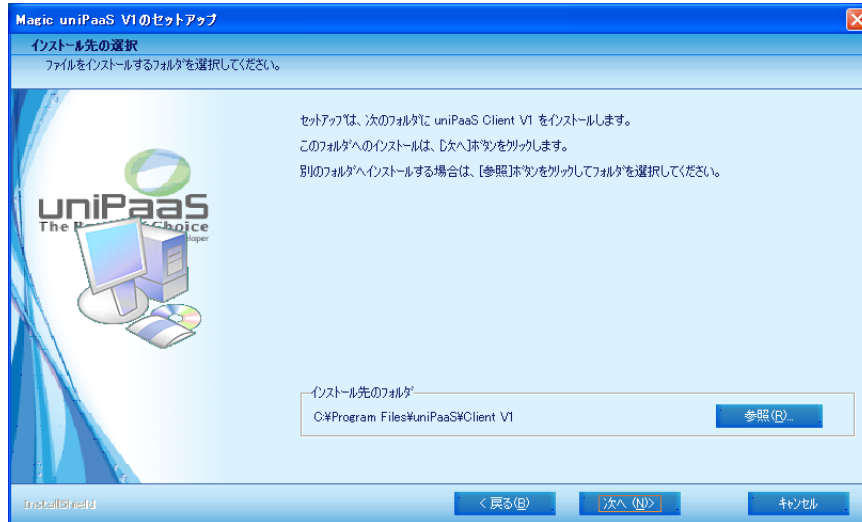


図 2-18 インストール先の選択

変更する場合は、[参照 (R)] ボタンをクリックするとディレクトリを選択するダイアログが表示されます。

パス欄に直接ディレクトリ名を入力するか、フォルダウィンドウ内で指定することもできます。

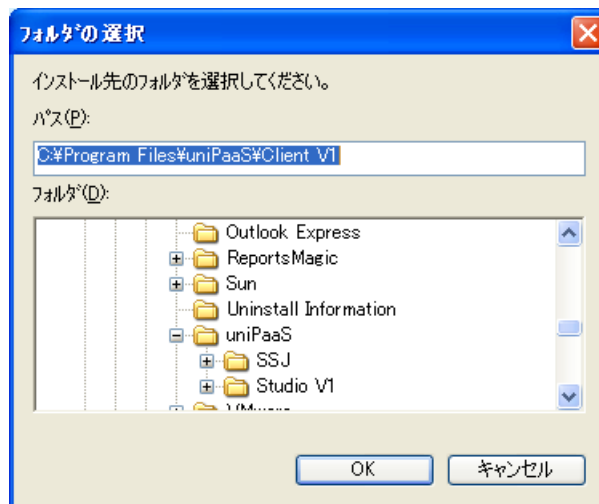


図 2-19 ディレクトリの選択

2

指定したパスが存在しない場合は、確認ダイアログを表示し、[はい (Y)] を選択された場合はファイル転送時に作成します。

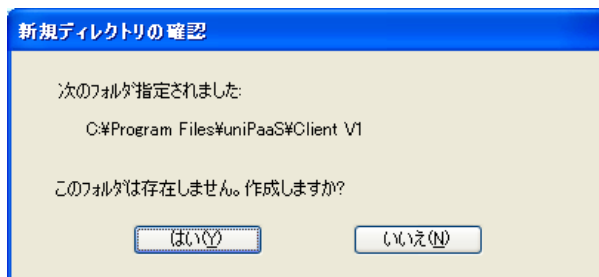


図 2-20 ディレクトリの作成確認

コンポーネントの選択

セットアップタイプで「カスタム」を選択した場合だけ表示されます。

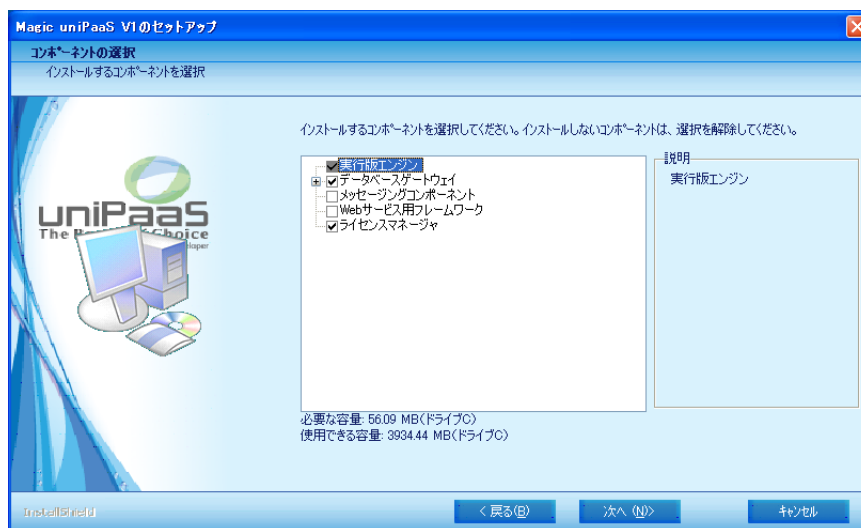


図 2-21 コンポーネントの選択

デフォルトの設定状態が表示されますので必要に応じて変更してください。チェック欄が黒く塗りつぶされているコンポーネントは、必須コンポーネントのため変更できません。

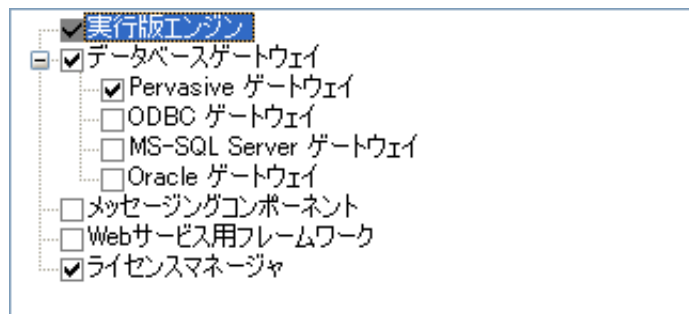


図 2-22 ゲートウェイの選択

親ツリーをクリックすると、サブツリー上のコンポーネントが全て選択されます。必要ないものまで選択される場合もありますのでサブツリーの内容も確認してください。指定したら、[次へ (N)] をクリックしてください。

プログラムフォルダの選択

セットアップタイプで「カスタム」を選択した場合だけ表示されます。

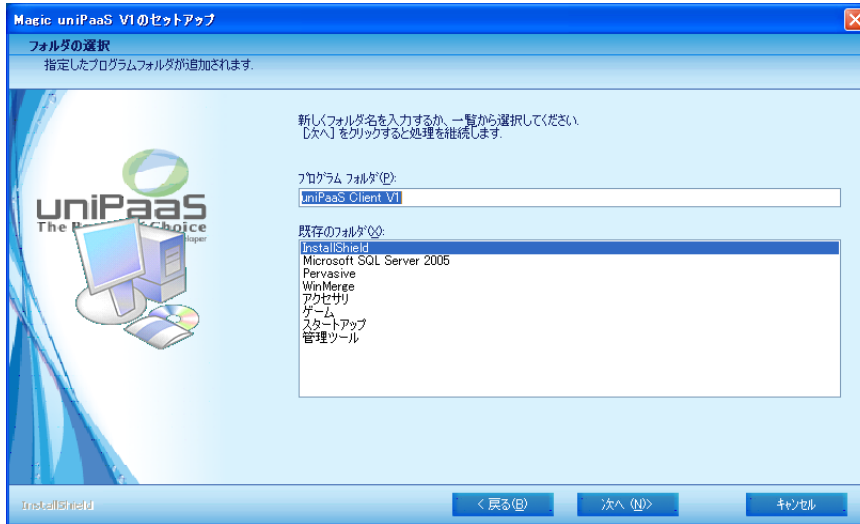


図 2-23 フォルダの選択

OS 上に登録するフォルダ（グループ）名を指定して [次へ (N)] をクリックしてください。

ライセンスファイルの指定

ライセンスマネージャが指定されない場合、ライセンスファイルを指定するダイアログが表示されます。

- 既存のライセンスファイルを使用します……すでにインストールされているライセンスファイルにアクセスできるように指定します。
- ライセンスサーバに接続します……指定できません。

デモライセンスを使用します……チェックをオフにすると Magic uniPaaS の動作環境に製品ライセンス (MGCSRTX) が設定されます。

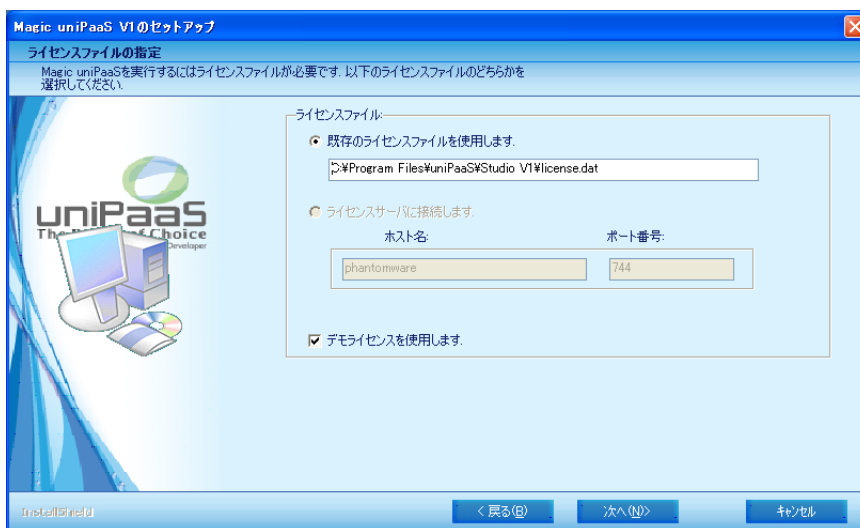


図 2-24 ライセンスファイルの指定

指定したら、[次へ (N)] をクリックしてください。

セットアップファイルの転送

今までの指定内容を確認するために表示されます。間違いがなければ [次へ] をクリックしてください。変更する場合は、[戻る] をクリックしてください。

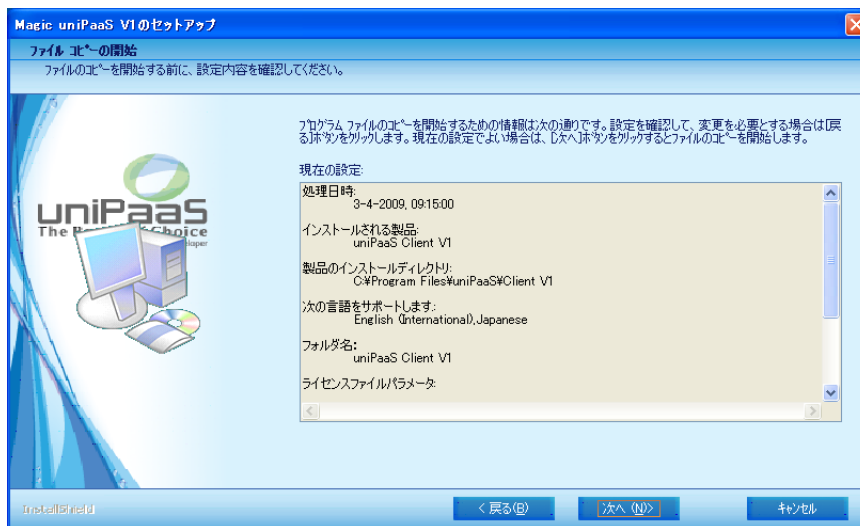


図 2-25 セットアップ情報

ファイルの転送処理が実行されプログレスバーが表示されます。

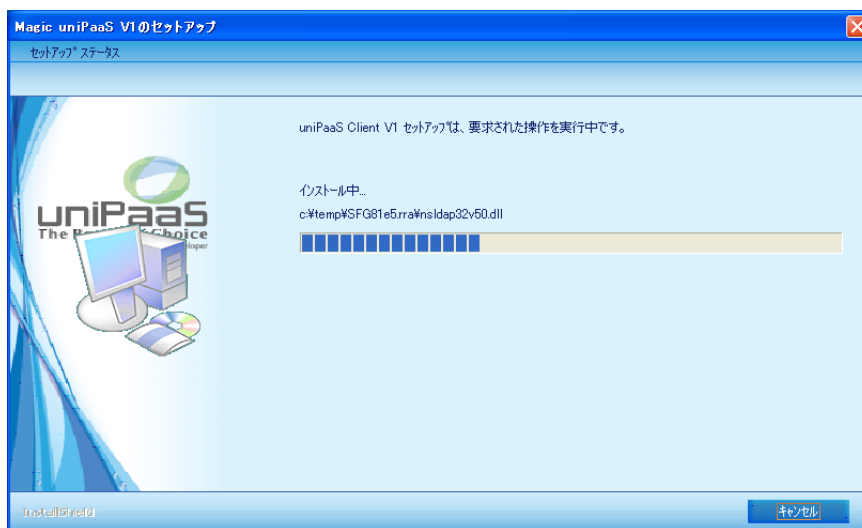


図 2-26 セットアップステータス

Web サービス用フレームワークのインストール

Web サービス用フレームワークが選択されている場合、Magic uniPaaS のインストール中に「Web サービス用フレームワーク (処理に数分かかります。)」と表示されます。ここでは、JRE や Systinet Server のインストール処理が実行されているため、しばらく表示内容が変わりません。

JRE がインストールされていないか、バージョンが Ver1.4 未満の場合は JRE のインストールを実行します。その後、Systinet Server のインストール処理が実行されます。OS の環境変数「WASP_HOME」が既に設定されている場合、Systinet Server がインストール済みと判断されインストール処理は実行されません。

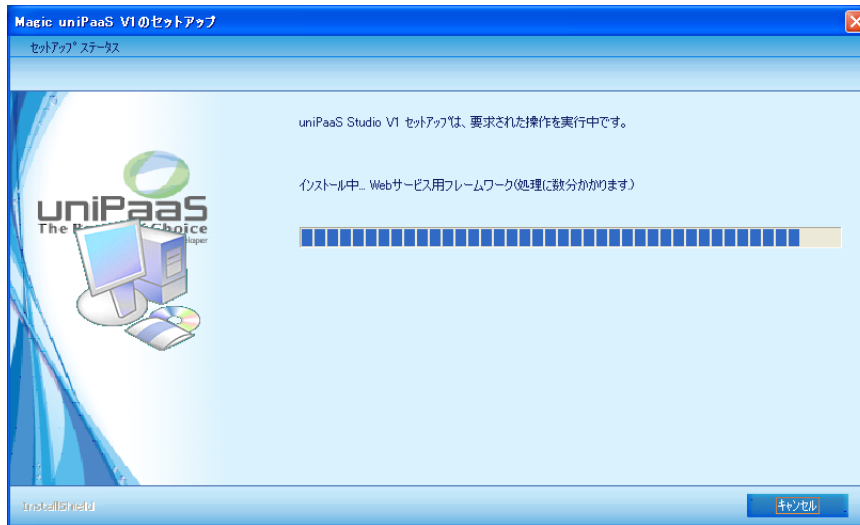


図 2-27 Web サービス用フレームワークのインストール処理



クライアント環境設定では、Web サービス用のフレームワークのインストール処理を行いません。各クライアントでのインストールが必要な場合は、製品選択ウィンドウ（18 ページ）から Component を選択することでインストールできます。

セットアップの終了

終了のダイアログが表示されます。

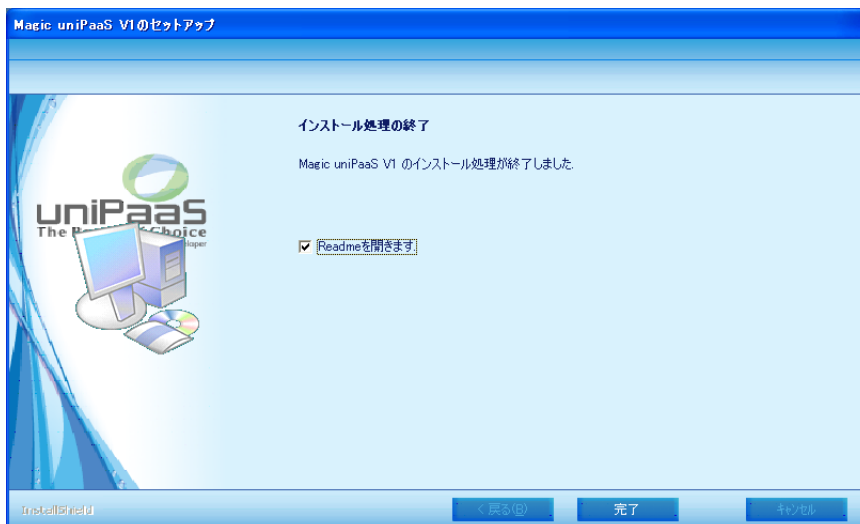


図 2-28 終了ダイアログ

[完了] をクリックするとインストールプログラムが終了します。

メンテナンス処理

一旦 Magic uniPaaS をインストールした PC 上で同じ製品のインストーラを起動した場合、メンテナンスモードで起動されます。この場合、すでにインストールされた製品の設定を変更する処理のみ行われ、新たにインストールすることはできません。

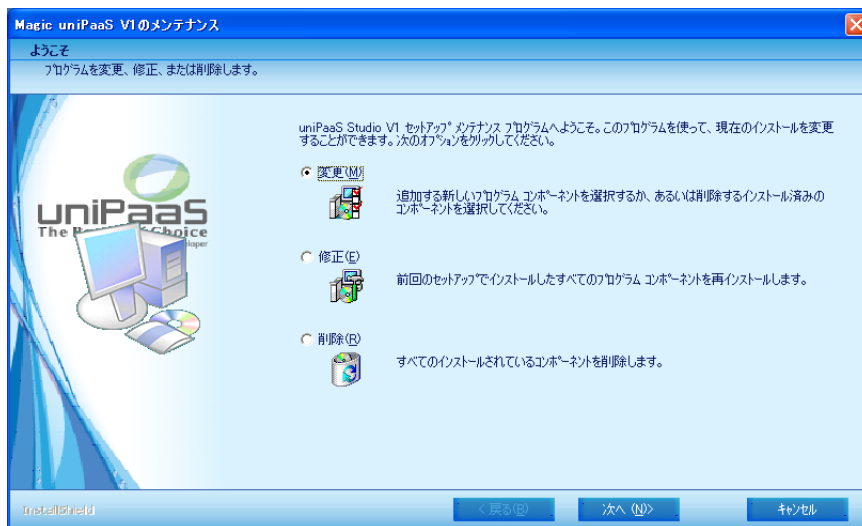


図 2-29 メンテナンスモードでのウェルカムダイアログ

- **変更**……インストールするコンポーネントの追加削除を行います。
- **修正**…… 前回インストールした内容でもう一度インストールします。(ファイルが破損した場合などに行ってください。)
- **削除**……インストール内容を削除します。



コンポーネントを追加する場合は、**アップグレード処理**で行うようにしてください。(同一バージョンである旨の警告が表示されますが、そのまま処理を継続できません。)

Magic uniPaaS 製品以外のアンインストール処理

Systinet Server のアンインストール

Systinet Server は Magic uniPaaS のアンインストール処理では削除されません。Systinet Server は以下の手順で手動で削除する必要があります。

1. プログラムメニューから「Systinet 6.x.x」のメニューを削除します。
2. Magic uniPaaS のインストールディレクトリの上位ディレクトリに「SSJ」というサブディレクトリがあります。このディレクト内の UninstallService.bat を実行し、SystinetServer サービスを削除します。
3. Magic uniPaaS のインストールディレクトリの上位ディレクトリに「SSJ」というサブディレクトリがあります。このディレクトを削除します。
4. [システムのプロパティ] ダイアログを開き、環境変数「WASP_HOME」を削除します。
5. 必要であれば、[プログラムの追加と削除] ダイアログを開き、JRE をアンインストールしてください。

アップグレード処理

一旦 Magic uniPaaS をインストールした PC 上で新しいレビジョンの同じ製品のインストーラを起動した場合、アップグレードモードで起動されます。この場合、すでにインストールされた製品のコンポーネントをアップグレードする他、コンポーネントの追加／削除を行うこともできます。

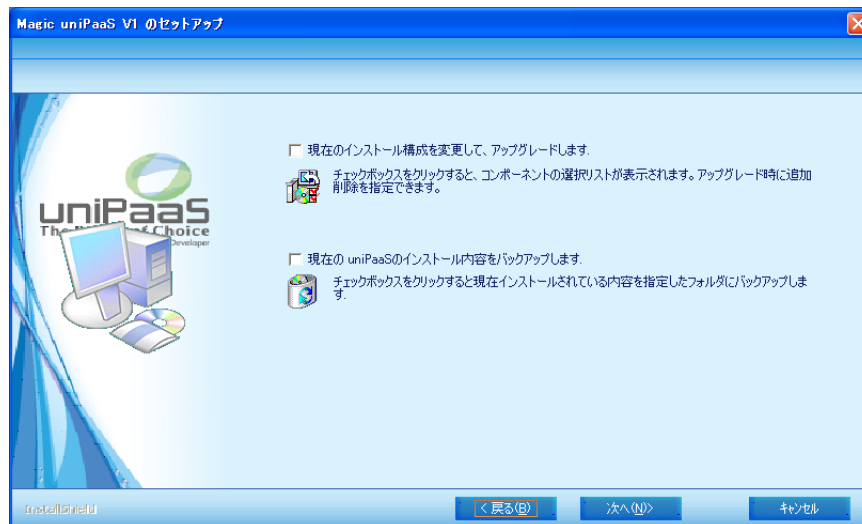


図 2-30 アップグレードモードでのウェルカムダイアログ

アップグレード処理には次のようなオプションがあります。

コンポーネントの選択

[現在のインストール構成を変更して、アップグレードします。] という選択を有効にすると、コンポーネントの選択ダイアログを表示します。ここでコンポーネントとの選択内容を変更することで、コンポーネントの追加／削除を行うことができます。

バックアップ機能

[現在の uniPaaS のインストール内容をバックアップします。] という選択を有効にすると、現在インストールされているファイルが指定したバックアップディレクトリ内にコピーされた上で、アップグレード処理を実行します。

アップグレード手順

バックアップ処理を選択した場合は、ファイルのバックアップ先のディレクトリを指定するダイアログが表示されます。

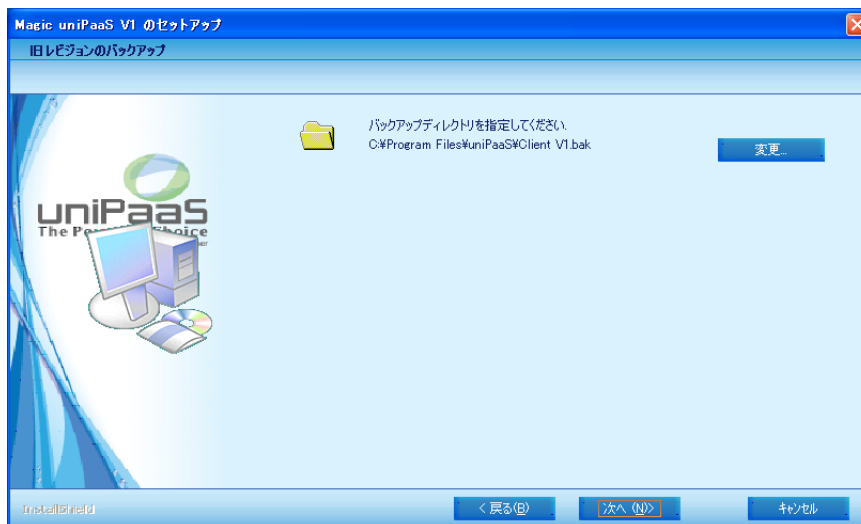


図 2-31 バックアップディレクトリの指定ダイアログ

インストール内容を変更するように選択した場合は、カスタムインストールのようなコンポーネント一覧が表示されます。(コンポーネントの選択内容によって個別の設定ダイアログが表示される場合があります。)

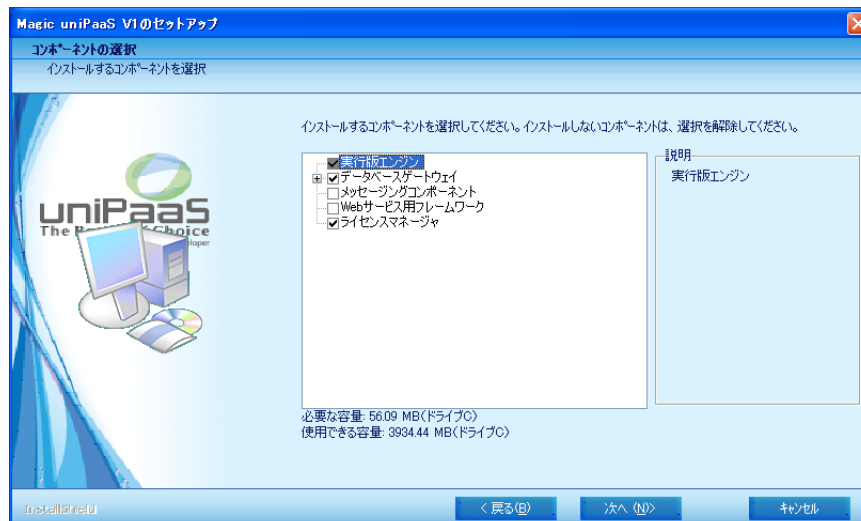


図 2-32 コンポーネント一覧

バックアップの指定をしている場合、一旦次のようなダイアログが表示されます。使用している DBMS を一旦停止しておいてください。

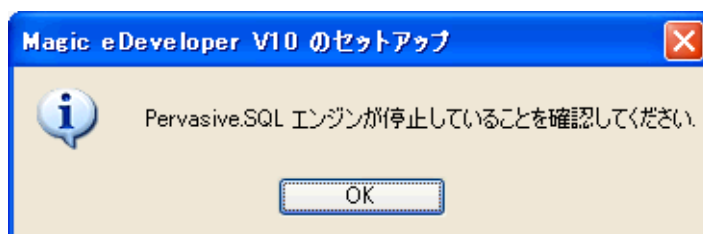


図 2-33 Pervasive.SQL エンジンの停止確認ダイアログ



バックアップ処理する場合は、Pervasive.SQL 等の DBMS を停止してから行うようにしてください。

バックアップ処理が開始されます。

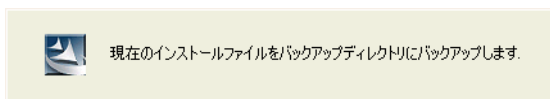


図 2-34 バックアップステータス

バックアップが終わってから、ファイルの転送処理を行いアップグレードします。

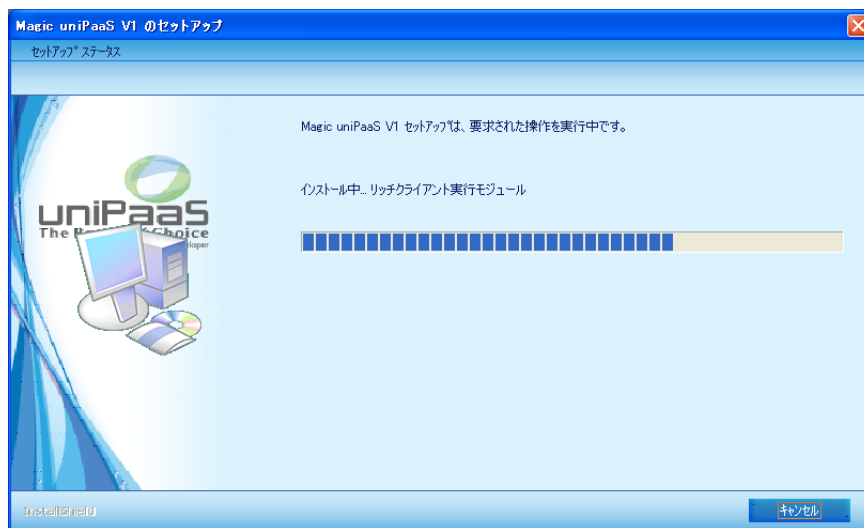


図 2-35 ファイル転送時のプログレスバー

[このページは意図的に空白にしています。]

トラブルシューティング

3

ここではインストールやユーザ登録時に発生しうる可能性のある問題と対処方法について説明いたします。

ここでは以下のトピックが記載されています。

- ライセンスサーバの確認方法
- ライセンスのトラブルシューティング
- インストール時の FAQ
- ライセンス登録時の FAQ
- エラーメッセージ一覧

ライセンスのトラブルシューティング

Magic uniPaaS を起動したり、アプリケーションを実行する場合にエラーがでる場合の対応方

法を列挙します。

ユーザ数オーバのエラーダイアログが表示される

アプリケーションのオープン時に以下のようなエラーダイアログが表示された場合は、ライセンスに登録されたユーザ数を全て使用していることが考えられます。

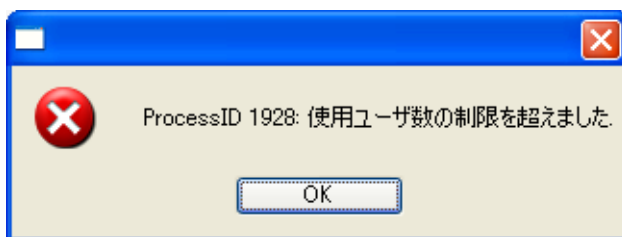


図 3-1 ユーザ数オーバのエラーメッセージ

ユーザ数を確認するには、Magic uniPaaS のインストールフォルダ内の MGStaions ユーティリティを使用してください。使用方法は、リファレンスヘルプを参照してください。

OS の環境設定

Windows Vista™ / Windows Server 2008 でのインストールについて

Windows Vista や Windows 2008 Server に Magic uniPaaS V1 をインストールする場合、以下の点に注意してください。

実行許可の確認

インストールは、Administrators グループに所属しているユーザで行ってください。

UAC が有効の場合、インストールプログラムの実行時に [ユーザー アカウント制御] ダイアログが表示されます。ここで [続行] をクリックしてください。処理が継続して行われます。

リッチクライアントモジュールのインストール

リッチクライアントモジュールをインストールする場合は、あらかじめ IIS がインストールされている必要があります。この時 IIS では以下の機能が有効にされている必要があります。

Web 管理ツール

- IIS 管理コンソール

World Wide Web サービス

- HTTP 共通機能
 - 規定のドキュメント
 - 静的コンテンツ
- アプリケーション開発機能
 - .NET 拡張機能
 - ASP .NET
 - CGI
 - ISAPI フィルタ
 - ISAPI 拡張機能
- セキュリティ
 - 要求のフィルタリング

Windows ファイアウォール

Windows ファイアウォールが有効な場合、「World Wide Web サービス (HTTP)」を有効にするように設定します。

Apache のエイリアス設定

IIS がインストールされている場合は、インストール処理によって自動的に必要なエイリアスが定義されますが、これ以外の Web サーバを使用する場合は、エイリアス設定を手動で行う必要があります。Apache (Apache HTTP サーバ Ver2.x) を Web サーバとして使用した場合は、httpconf ファイルに以下のようにエイリアス設定を追加します。(ディレクトリ名やエイリアス名は、インストール時の設定内容に合わせてください)。

```
<IfModule alias_module>
# Internet Requester
ScriptAlias /uni15Scripts/ "C:/Program Files/uniPaaS/Studio/Scripts/"
<Directory "C:/Program Files/uniPaaS/Studio/Scripts">
Options ExecCGI
AllowOverride None
Order allow,deny
Allow from all
</Directory>

# RichClient Module
Alias /uni15RIAModules/ "C:/Program Files/uniPaaS/Studio V1/RIAModules/"
<Directory "C:/Program Files/uniPaaS/Studio/RIAModules">
Options None
AllowOverride None
Order allow,deny
Allow from all
```

```

</Directory>

# RichClient Applications
Alias /uni15RIAApplications/ "C:/Program Files/uniPaaS/Studio/PublishedApplications/"
<Directory "C:/Program Files/uniPaaS/Studio/PublishedApplications">
Options None
AllowOverride None
Order allow,deny
Allow from all
</Directory>

# RichClient Cache
Alias /uni15RIACache/ "C:/Program Files/uniPaaS/Studio/RIACache/"
<Directory "C:/Program Files/uniPaaS/Studio/RIACache">
Options None
AllowOverride None
Order allow,deny
Allow from all
</Directory>

# BrowserClient modules
Alias /uni15BC/ "C:/Program Files/uniPaaS/Studio/Browser_Client_Module/"
<Directory "C:/Program Files/uniPaaS/Studio/Browser_Client_Module">
Options None
AllowOverride None
Order allow,deny
Allow from all
</Directory>

# BrowserClient Cache
Alias /uni15BCCache/ "C:/Program Files/uniPaaS/Studio/Browser_Client_Cache/"
<Directory "C:/Program Files/uniPaaS/Studio/Browser_Client_Cache">
Options None
AllowOverride None
Order allow,deny
Allow from all
</Directory>
</IfModule>

```

インストール時の FAQ

Q : どのメニューを選べばよいか分からない

A : 本製品の CD-ROM には Magic uniPaaS V1 関連のすべての製品が入っておりますが、セットアップできるのは以下のものだけです。

- 購入された製品……インストール後にライセンス登録が必要です。

Q : ファイルサーバ上に Magic uniPaaS をインストールして各クライアントで共有して使いたい

A : uniPaaS Client [セットアップタイプの選択] ダイアログで [環境設定] を選択することで可能になります。ただし、エンジンを共有する場合は、各クライアント数分のライセンスを所持していることが前提となります。

Q : Magic uniPaaS V1 のマニュアルについて

A : Magic uniPaaS の CD-ROM に Online というディレクトリがあります、ここに、マニュアル類が PDF 形式で入っております。併せて参照してください。また、uniPaaS Studio は、PC にインストールすることもできます。リファレンスは、ヘルプ形式でのみ提供しています。

参考

PDF形式の文書を読むためには、Adobe Readerをインストールする必要があります。
Adobe社のサイトからインストールファイルをダウンロードできます。

Q : Magic uniPaaS 起動時に "MGXXX.EXE - DLLが見つかりません" というエラーダイアログが表示される

A : Gatewayに対応した、各DBMS側のクライアントツールがインストールされていない場合に発生します。

- Pervasive.SQLの場合……Pervasive.SQL V9/V8
- SQL Serverの場合……SQL Server クライアントモジュール
- Oracleの場合……Oracle Client
- ODBCの場合……各種のODBCドライバ

Q : インストール直後に別の製品をインストールしたら、エラーが出てしまった

A : インストール処理のプロセスが残っている状態で、別のインストール処理のプロセスを実行するとエラーが発生して処理が継続できません。しばらく時間をおいてから再度起動してみてください。

Q : コンポーネントを追加したら、ファイルの転送中に「次のディスクの挿入」というダイアログが表示される。

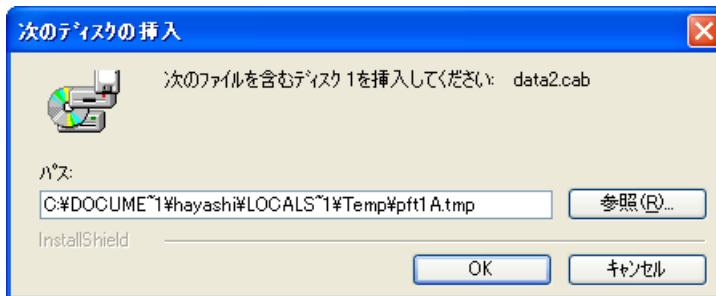


図 3-2 次のディスクの挿入ダイアログ

A : インストール CD-ROM がお手元にある場合は、[参照] ボタンをクリックして CD-ROM 内の Magic uniPaaS 各製品用フォルダ内にある data2.cab を選択してください。

ダウンロードファイルにてインストールされている場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして処理を中断し、ダウンロードファイルでインストール処理を実行してください。この場合、アップグレード処理になりますが、インストール構成の変更オプションを選択することで追加できます。

ライセンス登録時の FAQ

Q : 同じ製品のライセンスを登録したい

A : 同じ製品のライセンスを複数登録することはできません。ユーザ数のアップなどで再度ライセンス登録を行う場合は、一旦該当するライセンスを削除し、新しいライセンスコードで再登録する必要があります。

エラーメッセージ一覧

セットアップ時のエラーメッセージは以下の通りです。

コンポーネントの選択時のエラー

サービスを登録するには Administrator の権限が必要です。

Administrator の権限のないユーザが MRB や ライセンスサーバを選択した場合このエラーが出ます。

選択されたモジュールの中に、TCP/IP の環境が必要なものがあります。(ライセンスサーバ、MRB, インターネットリクエスト) 選択モジュールを変更してください。

TCP/IP 環境がない PC に対して MRB や インターネットリクエスト、ライセンスサーバを選択した場合このエラーが出ます。

この PC には、ローカルのサービスがすでにインストールされています。

MRB のサービスがすでに登録済みの状態の PC に対して MRB を選択した場合このエラーが出ます。MRB の選択をはずすか、既存の MRB をアンインストールしてください。

ファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

内部エラーです。CD-ROM からファイルが読み取れなかった可能性があります。

3

MRB のパスワード指定時のエラー

パスワードは 32 桁以上指定できません。

パスワードの設定ダイアログでは、桁数を 32 桁までに制限をかけています。

インストールディレクトリ指定の時

ディレクトリ XXXX の作成中にエラーが発生しました。処理を中断します。

指定したディレクトリが作成できませんでした。ディスクの不良かディレクトリの作成権がない可能性があります。

[No] が選択されたため、作成しませんでした。

ディレクトリの作成確認で [No] が選択されました。

指定されたディレクトリ名は長すぎます。

インストール先のパス名の長さが、200 桁以上になっています。ディレクトリ名は、200 桁以上指定できません。

インストール先のドライブには十分な空き容量がありません。インストールするには少なくとも XX K バイト以上の空きが必要です。インストール先には、XX K バイトの空き容量しかありません。

指定したインストール先のドライブの空き容量が、転送するファイルサイズより小さい状態です。インストール先を変更するか、ディスクスペースを増やしてください。

ライセンスサーバ/ライセンスファイル指定時のエラー

指定されたライセンスファイルは存在していません。

他のライセンスファイルを指定する選択をしているが、指定されたファイルが見つかりませんでした。

インターネットリクエストの転送先指定時のエラー (ISAPI 用)

ISAPI リクエストを使用する Microsoft Web サーバの Scripts ディレクトリが指定されていません。デフォルトのディレクトリが選択されます。

転送先を指定するパス名が設定されていない場合は、Magic uniPaaS のインストール先をデフォルトにします。

指定された リクエストの転送先のディレクトリが存在しません。デフォルトのディレクトリが選択されます。

指定したパスが存在しない場合は、転送先が Magic uniPaaS のインストール先に変更されます。

BC モジュールの転送先ディレクトリが指定されていません。デフォルトのディレクトリが選択されます。

転送先を指定するパス名が設定されていない場合は、Magic uniPaaS のインストール先をデフォルトにします。

指定された BC モジュールの転送先ディレクトリは存在しません。デフォルトのディレクトリを選択します。

転送先を指定するパス名が設定されていない場合は、Magic uniPaaS のインストール先をデフォルトにします。

リクエストの転送先のエイリアスと BC モジュールの転送先のエイリアスが同じ名前になっていました。BC モジュール側のエイリアスをデフォルトに変更しました。

リクエストの転送先のエイリアスと BC モジュールの転送先のエイリアスを同じ名前には指定できません。この場合、BC モジュールの転送先のエイリアスをデフォルト値に変更します。

インターネットリクエストの転送先指定時のエラー (CGI 用)

CGI リクエスト用の Scripts ディレクトリが指定されていません。デフォルトのディレクトリが選択されます。

転送先を指定するパス名が設定されていない場合は、Magic uniPaaS のインストール先をデフォルトにします。

指定された CGI 用の Scripts ディレクトリは存在しません。デフォルトのディレクトリを選択します。

指定したパスが存在しない場合は、転送先が Magic uniPaaS のインストール先に変更されます。

BC モジュールの転送先ディレクトリが指定されていません。デフォルトのディレクトリが選択されます。

転送先を指定するパス名が設定されていない場合は、Magic uniPaaS のインストール先をデフォルトにします。

指定された BC モジュールの転送先ディレクトリは存在しません。デフォルトのディレクトリを選択します。

転送先を指定するパス名が設定されていない場合は、Magic uniPaaS のインストール先をデフォルトにします。

リクエストの転送先のエイリアスと BC モジュールの転送先のエイリアスが同じ名前になっていました。BC モジュール側のエイリアスをデフォルトに変更しました。

リクエストの転送先のエイリアスと BC モジュールの転送先のエイリアスは同じにできません。この場合、BC モジュールの転送先のエイリアスをデフォルト値に

変更します。

MRB 指定時のエラー

MRB が稼働しているサーバのホスト名を指定してください。

MRB が稼働しているホスト名が指定されていません。

Windows のサービスの更新時のエラー

MRB のサービス登録に失敗しました。

MRB のサービスの登録に失敗しました。

MRB サービスの開始に失敗しました。

MRB のサービスの開始処理に失敗しました。

サービスの停止に失敗しました。

MRB/ ライセンスサーバのサービスの停止に失敗しました。

サービスの削除に失敗しました。

MRB/ ライセンスサーバのサービスの削除に失敗しました。

Windows のサービスの扱いについては、アプリケーションのシステム管理担当者にご相談ください。

Windows Vista の場合、ライセンスサーバはサービスとして登録されません。

インストール情報作成時のエラー

アプリケーションフォルダの作成に失敗しました。

スタートメニューへの登録ができませんでした。フォルダ名に、使用できない文字が含まれている可能性があります。

ファイルの書込ができません

表示されているファイルが、何らかの原因で作成できませんでした。

リストを書き込めませんでした。

インストール情報用ファイル (Install.inf) への情報の書込みに失敗しました。

MAGIC.INI 作成エラー : MAGICINI.INC の作成に失敗しました。

MAGICINI.INC は、MAGIC.INI を作成するための中間ファイルですが、このファイルが何らかの原因で作成できませんでした。

アプリケーション起動時のエラー

シェルインタフェース用 DLL がロードできませんでした。(shell32.dll)

アプリケーション起動用のドライバがロードできませんでした。

実行できません

テキストファイルに関連付けられたアプリケーションを実行しようとしたのですが、実行できませんでした。関連付けができていない可能性があります。

エラー：次のコマンド・プロセス作成に失敗しました。

MRBなどをインストール後に実行させますが、その際正常に起動できなかった場合に発生します。

メンテナンス/アップグレード時のエラー

アンインストールプログラムは、レジストリ上の現在のレビジョンの 'Version' キーを見つけられませんでした。

レジストリにアンインストール情報が残っている場合、メンテナンスモードで起動します。この時、レジストリの上のインストール情報

[HKEY_LOCAL_MACHINE] の「Magic Software Japan¥ (製品名) ¥1.5」

を探しに行きますがこの情報が存在しない場合、このようなエラーが発生します。レジストリのアンインストール情報を削除する必要があります。

少なくとも1つ以上のコンポーネントの追加/削除を行ってください。

メンテナンスモードで、「変更」を選択した場合は、コンポーネントの指定内容を必ず変更する必要があります。

エラー：バックアップに失敗しました。

アップグレード処理時に、バックアップを指定した場合そのファイルが使用中のためコピー処理が正常に行われなかった可能性があります。番号が表示される場合は以下に該当します。

- -2……転送元のファイルがオープンできなかった場合
- -3……転送先のファイルがオープンできなかった場合
- -6……メモリ不足のため処理ができなかった場合
- -27……転送先のディレクトリが作成できなかった場合（作成権がない可能性があります。）
- -38……転送先に十分な空き容量がなかった場合
- -46……転送先が読取専用になっていた場合
- その他……その他特定できない要因でエラーになりました

新しいバージョンです。メンテナンスモードでは処理できません。セットアップを終了します。

古いバージョンのインストールモジュールでアップグレードを実行したときに発生します。

バックアップに失敗しました。バックアップ処理をもう一度行いますか？

アップグレード処理時に、バックアップを指定した場合そのファイルが使用中のためコピー処理が正常に行われなかった可能性があります。Btrieve エンジンが停止していることや、ディスクの空きスペースがあることを確認してから行ってください。

アンインストール処理によるインストールディレクトリの削除に失敗しました。以下のディレクトリを削除しますか？

表示されているディレクトリの削除ができなかった可能性があります。必要に応じて、後で削除してください。

ファイルの更新に失敗しました。このファイルは、サービスが実行中か何か動作しているためにロックされています

MRB のログファイルなどは、MRB が実行している場合、ロックされていて削除できません。表示されているファイルに関連したプログラムが実行中の場合があ

りますので、確認の上停止してください。

アンインストール時のエラー

タイトルに表示されている理由でファイルが更新できませんでした。このファイルは、サービスが実行中か何か動作しているためにロックされています

MRB などが実行中の場合、Log ファイルなどがロックされているため、アンインストール処理が正常に行えなくなります。実行中のプロセスを止めてから処理を再開してください。

アンインストール処理によるインストールディレクトリの削除に失敗しました。以下のディレクトリを削除しますか？

インストールディレクトリにファイルが存在する場合、ディレクトリの削除処理ができない場合があります。「はい」をクリックすると削除されます。(これでも正常に削除されない可能性がありますので、あとで確認してください。)

3

ファイルの転送エラー

以下のデータの転送中にエラーが発生しました。セットアップを中断します。

ファイル転送中のエラーです。転送先にファイルを書き込めなかったか、CD の読み取りエラーの可能性あります。

内部エラー

セットアップ用コンポーネントの設定エラーです。

インストール内部のファイルの読み込みエラーが発生した可能性があります。

[このページは意図的に空白にしています。]

Magic uniPaaS V1 インストールガイド



Copyright 2009 Magic Software Enterprises Ltd.and Magic Software Japan K.K. All rights reserved.

第二版 2009年4月17日
発行 〒151-0053 東京都渋谷区代々木三丁目二十五番地三号
あいおい損保新宿ビル 14階

Magic Software Japan K.K.